

# 体育科学習指導案

2019年6月7日（金）学習指導Ⅰ（体育館）4年2組 指導者

Ⅰ 単 元 セストボール

Ⅱ 考 察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

セストボールの行い方についての知識や、パスやシュート、ボールを持たないときの動きの技能

②思考力、判断力、表現力等

セストボールにおけるチームの課題を見付ける力、練習方法を選ぶ力、考えたことを伝える力

③学びに向かう力、人間性等

規則を守り誰とでも仲よく、安全に気を付けながら進んでセストボールに取り組む態度

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

E ゲーム

(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、易しいゲームをすること。

ア ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすること。

(2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えること。

(3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。

(3) 単元の価値

本単元は、「4の2セストボール大会」に向け、パスやシュートといった基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、セストボールに取り組む学習である。その価値は以下のとおりである。

セストボールは、パスでボールを運んでシュートを打ち、得点することに面白さや楽しさがある。さらに、ドリブルをせずパスだけでボールを運び、360°どこからでもシュートが打てるという特性がある。そのため、パスやシュートといった基本的なボール操作に加えて、守りをかわしパスをもらおうと空いている場所に素早く動くことやシュートが打ちやすい位置に移動することが必要となり、ボールを持たないときの動きの技能を身に付けることにつながる。

セストボールは、コート内で攻守が入り混じるため、プレーの選択肢が多く、基本的なボール操作やプレーの状況判断に困難さが出てくることもある。そこで、本単元では、攻守交代制の3対2アウトナンバーゲームで構成する。アウトナンバーゲームは、オープンナンバーゲームに比

べ、ノーマークを作りやすい。そのため、ゲームの状況判断が容易になり、一人一人がパスやシュートをする機会が増えたりするので、セストボールの行い方についての知識や、パスやシュートの技能を身に付けることにつながる。

セストボールで得点するためには、一人一人の基本的なボール操作に加えてチームで連携して動くことが必要である。チームで連携して動くためには、チームで協力し、攻め方を話し合うことが不可欠である。その際、取り組んだ動きと目標とする動きを比較することで、チームの課題を見いだすことができる。また、見いだしたチームの課題に応じた練習方法を選び、繰り返し取り組む中で、チームの課題を解決するために考えたことを友達と伝え合うことができる。

そして、「つかむ」過程で「4の2セストボール大会」というクライマックスイベントを知ることによって、大会に向けてチームで攻め方を工夫し、シュートするという目標をもち、チームで協力してセストボールに取り組むことができる。

#### (4) 今後の学習

ここでの学習は、6年「バスケットボール」で、得点しやすい場所へ移動し、パスを受けてシュートをする学習へと発展していく。

#### 2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、3年「センタリングサッカー」の学習で、ねらったところにパスやシュートをしてセンタリングサッカーをする学習をしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① センタリングサッカーの行い方を知り、ねらったところにパスやシュートをできるようにってきている。このような子どもたちがセストボールの行い方を知り、ねらったところにパスやシュートをしたり、空いている場所に素早く動いたりできるように、試しのゲームの時間を十分に確保したり、基本的なボール操作を練習する時間を毎時間設定したりする。
- ② 動きのポイントを踏まえ、センタリングサッカーにおける簡単な作戦を選べるようになってきている。このような子どもたちが、動きのポイントを踏まえ、セストボールにおける簡単な作戦を選べるように、作戦の動きを確認できる作戦カードやチームの動きを可視化できる作戦ボードという教具を用意する。
- ③ センタリングサッカーに進んで取り組み、友達のよい動きを認められるようになってきている。このような子どもたちが、友達のよい動きを認め、セストボールに進んで取り組めるように、男女混合の7～8人で構成されたチームを編制し、一つのチームを二つに分け、互いに動きを見合う機会を設定する。

### Ⅲ 目標及び評価規準

#### Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

#### Ⅴ 本時の学習（5／8時間目）

- 1 ねらい パスでボールを運ぶことにおけるチームの課題に応じた練習方法を選んで、繰り返し練習することを通して、空いている場所に動くことができる。
- 2 準備 「つかむ」過程で作成した模造紙 練習方法をまとめた図 作戦ボード
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前の時間はサポートの動きのポイントを見付けたな。</li> <li>・今日は、課題に合った練習で空いている場所に動けるようになりたいな。</li> </ul>	<p>○チームの課題に応じた練習をして、空いている場所に動けるようにするという本時の見通しをもてるよう、「つかむ」過程で作成した模造紙を提示し、本時できるようになりたい動きや学び方を問いかける。</p>
<p>めあて「チームの課題に合った練習をして、空いている場所に動けるようになろう」</p>	
<p>2 タスクゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームの課題はボールを持たない人が動かないことだったな。ボールを持たない人がゴールの方向へ動けるようになろう。</li> <li>・まずは守り1人にして練習してみよう。パスをした後に止まっているから、パスをしたら素早く動けるようにしたいな。</li> <li>・守り1人にして三角形が作れたね。でも、ボールをもらう時に近付いてしまって、パスがしにくいよ。守りなしで動きを確認してから、守り1人で練習しよう。</li> <li>・三角形の大きさを大きくすることを意識したら、守り1人でも上手にパスができたよ。ゲームでも試したいな。</li> </ul> <p>3 メインゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達にも練習どおりに三角形を作ることができていると言われたよ。守り2人になってもパスをした人が素早く相手のいないところに動くことを意識したからだね。次のゲームでも同じように動けるように、空いている場所に素早く動こう。</li> </ul> <p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームの課題によって、守りの数を変えて練習したら、空いている場所に動けてシュートを打つ回数が増えたよ。</li> <li>・次はチームで大会に向けた作戦を決めたいな。そして、もっとシュートが打てるようにしたいな。</li> </ul>	<p>○チームの課題を自覚できるよう、前時見付けた課題をチーム内で伝えるよう促す。</p> <p>○チームの課題に応じた練習方法を選べるよう、攻め3人に対し、守り0人、1人、2人といった守りの数を変えた練習方法をまとめた図を提示する。</p> <p>○空いている場所に動けていないチームが、空いている場所に動くための手がかりを得られるよう、「パスが出しやすい三角形の大きさ」「パスをしたら動く」「守りと味方が一直線にならない」という動きのポイントを提示する。</p> <p>○チームの課題の達成度合を判断できるよう、取り組んだ動きを作戦ボードに表し、目標とする動きと比較するよう促す。</p> <p>○自分の動きに自信がもてるよう、空いている場所に動いてボールをもらおうとしていることを称賛する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p style="text-align: center;">ボールをもらおうと空いている場所に動こうとしている。 &lt;行動①&gt;</p> </div> <p>○動きの出来映えと練習方法のよさを実感できるよう、「できるようになった動き」「よかった練習方法やアドバイス」という振り返りの視点を提示する。</p> <p>○次時への見通しをもつことができるよう、「つかむ」過程で作成した模造紙を提示し、次時に取り組みたい動きや学び方を問いかける。</p>

指導と評価の計画（全8時間）

目標	チームで協力し、作戦を選んだり、教え合ったりしながら、パスやシュートをしたり、サポートの動きをしたりして、セストボールができる。			
評価 規準	(①知識及び技能)ねらった方向へパスやシュートをしたり、空いている場所へ動いたりして、セストボールができる。 (②思考力, 判断力, 表現力等)セストボールにおけるパスやシュート, サポートの動きのポイントを見付けたり, 作戦を選んだり, チームの課題の解決のために考えたことを友達に伝えたりしている。 (③主体的に学習に取り組む態度)規則を守り, 互いに協力したり, 勝敗を受け入れたりして公正にセストボールをしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つかむ	1	○試しのゲームを行い, 共通のめあてと自分のめあてを立てる。 ・共通のめあて 「4の2セストボール大会に向けて, パスやシュート, サポートの動きのポイントを見付け, 友達と協力しながら練習しよう」	○セストボールの中で取り組んでいく動きや学び方の見通しをもてるように, 「できるようになりたい動き」「学び方」「楽しく安全に運動するためにできること」の視点を提示する。	◇シュートを入れられるようになる, チームで作戦を立ててシュートをたくさん打てるようになるなど, 具体的なめあてを記述している。 <学習プリント③>
追求する	1	○パスやシュートの動きのポイントを見付ける。	○パスやシュートの動きのポイントに気付けるように, 「膝」「目線」「ボールの軌道」の観点を提示する。	◇膝をばねのように使う, ボールを持ったらゴールを見る, 足をボールを投げる方に1歩出すなどの動きのポイントを記述している。 <学習プリント②>
	1	○パスやシュートの動きのポイントを踏まえ, ゲームに取り組む。	○チームの動きの出来映えを自覚できるように, チーム内でお互いの動きを見合う役割を設定する。	◇目線を対象に向け膝の力を使ってパスやシュートをしている。 <行動①>
	1	○サポートの動きのポイントを見付ける。	○サポートの動きのポイントに気付けるように, 「三人の形」「パスした後」「距離」の観点を提示する。	◇3人で三角形を作る, パスをしたら止まらない, 3人の距離は近すぎないなどの動きのポイントを記述している。 <学習プリント②>
	1	<b>○サポートの動きのポイントを踏まえ, ゲームに取り組む。(本時)</b>	○サポートにおけるチームの課題の達成度合を自覚できるように, 作戦ボードでチームの動きを確認する時間を確保する。	◇ボールをもらおうと空いている場所に動こうとしている。 <行動①>
	2	○チームで作戦を選び, ゲームをする。	○パスやシュート, サポートの動きに関わるチームの作戦を選べるように, 動きを視覚化できる作戦ボードやチームの作戦が記述してある作戦カードを用意する。	◇選んだ作戦でシュートを打つことができる。 <行動①>
まとめ	1	○「4の2セストボール大会」を行い, 友達のよい動きや頑張りを認め合い, 学習のまとめをする。	○学習の成果を実感できるように, 「できるようになった動き」「よかった練習方法やアドバイス」「自分や友達の頑張っていたこと」という振り返りの視点を提示する。	◇セストボールにおける自分や友達の動きのよさや頑張りを記述している。 <学習プリント③>